

新春トップインタビュー

昭和産業

新妻一彦社長



製粉事業については、輸入小麦の政府売渡価格は4月に大幅な値上げとなり、10月には緊急措置として、4月期の

21年から6回の価格改定を実施し、その都度、ご理解を得ながら進めているが、原料高騰のスピードに価格改定のスピードが追いつかず、利益面では苦戦している。家庭用では、汎用油が厳しかったが、高付加価値油である「オレインリッチ」や「健康こめ油」が好調に推移した。特に、こめ油は市場規模が40億円から100億円まで成長。20年にボソソ油脂を完全

「もう包まない!混ぜ餃子の素」は、皮がないのにまるで皮のようなパリッと食感が人気となったが、それに加え、包材のデザインも注目を集めた。昭和産業といえば、30、40代以上の方にとっては、天ぷら粉やホットケーキミックスといったイメージが強い

22年は船橋工場第2プレミックス工場が竣工稼働した

現在、広域営業部、ソ

組むことでV字回復を目指していく。

年初から原料高に見舞われる歴史的な年となった。新型コロナウイルスは、第6波、第7波の影響により経済活動の戻りが遅かったが徐々にウイズコロナ・アフターコロナへと動き出している。ウクライナ情勢の影響により原料穀物相場は上昇、エネルギー価格も上昇した。日米金利差による円安ドル高が進行し、一時は32年ぶりの安値となる151円を記録した。原料穀物の多くを海外から輸入している当社にとっては厳しい一年だった。

は即席麺、パン(ホールセーブル)、冷凍食品向けの製品群は好調だったが、依然としてCVS向けの製品が苦戦。マーケット分析力を生かし、ターゲット業態別の提案型営業の強化や業務用プレミックスについては、健康志向、プチ贅沢などの内食の多様化への提案活動に注力していく。

「もう包まない!混ぜ餃子の素」は、皮がないのにまるで皮のようなパリッと食感が人気となったが、それに加え、包材のデザインも注目を集めた。昭和産業といえば、30、40代以上の方にとっては、天ぷら粉やホットケーキミックスといったイメージが強い

完成した。船橋工場にRD&Eセンターが併設されていることで、自由な発想で開発ができることに加え、生産工程に乗せたときにうまくいくかまで見通せることのメリットも大きい。以前は、試作ではうまくいっても、生産ラインに乗せるとうまくいかないということがあったが、今は開発と生産技術が一体となって新商品開発に当たることができている。

種油を中心とした製油事業に加え、レシチンなどの機能性事業やアグリ事業を展開している。コーン油の原料となるコーンジャームを製造するスターチ工場と、辻製油と当社グループのコーンジャーム搾油設備・精製設備の有効活用による事業規模の拡大や製造の効率化、コスト低減に加え、糖化製品・コーン油製品の安定供給を図る。

「中期経営計画2022」では、ボソソ油脂・サンエイ糖化の子会社化や、船橋プレミックス第2工場の新設、環境問題への取り組みなど、必要な投資は着実に実行してきた。「長期ビジョン」の「収穫」のステータスとなる「中期経営計画23-25」では、持続的な成長に向けたビジネスモデルへの進化、外部環境の変化に左右されにくい収益構造改革に取り組んでいく。そして創業90周年、100周年を見据えた次期中計の1年目として、各施策に取り組みすることでV字回復を目指していく。

2022年を振り返って

政府売渡価格を適用する(据え置く)こととなった。4月期の値上げを受け、粉価改定に取り組み、お取り引き先の理解も得ることができ進捗、浸透した。製粉の需要は、前年比では100%となったが、対19年比では元に戻っておらず、まだまだ厳しい状況が続いている。小麦粉

が、SNS上ではいわゆるZ世代の人たち自らが興味をもった情報を発信している。若い世代を取り込みながら、昭和産業の情報を発信できるメリットを生かすため、Twitterの公式アカウントやECサイトの充実を図っている。

も参画している

SMやGMSのバックヤードでは、食品ロスの削減等の観点から仕込み数量も減ってきており、従来の5kg、10kg単位のサイズではなく、数百g〜2kgまでの小分けされたプレミックスの需要が高まっているため、家庭用に加え、小ロットの業務用プレミックスまでを一気通貫で作れる設備とした。人手不足もあり、プレミックス需要が高まっていることから、稼働率が高い状態が続いている。

リユーシオン営業部では、領域にとられず、ワンストップでいろいろなソリューションを提案している。4月からは全面的にマーケットイン志向の業態別・顧客別「ワンストップ型」の営業組織に変革し、製粉・油脂食品・糖質・飼料の全領域にわたり今まで以上にお客様の多様なニーズに対し、当社グループの強みである複合系シナジーソリューションを全社員が最大限に発揮できる組織にする。

90周年に向け「中計23-25」スタート

2025年度に創業90周年を迎える昭和産業。昨年は、辻製油と業務提携するなど、製油業界の再編をリードする存在でもある。23年からは収穫のステージと位置づける「中期経営計画23-25」をスタートさせ、組織改編にも取り組む同社の現在とこれからの新妻一彦社長に聞いた。

(聞き手 川田岳郎)

された

「2023年の抱負を